

ドミニカ共和国 教育と健康も、育てるために。

SDGsラジオを讀んでみよう！

チョコレートとゴミの分別…

ここには、深いつながりがあるんです。

食品会社の明治では、チョコレートの原料となるカカオを生産し続けるために、世界中にある産地を訪れて、さまざまなサポートに取り組んでいます。

例えばドミニカ共和国では、カカオの生産に関する支援だけでなく、学校や医療施設を補修したり、子どもたちへの学用品、さらにはゴミの分別に使う「回収箱」なども寄贈しています。

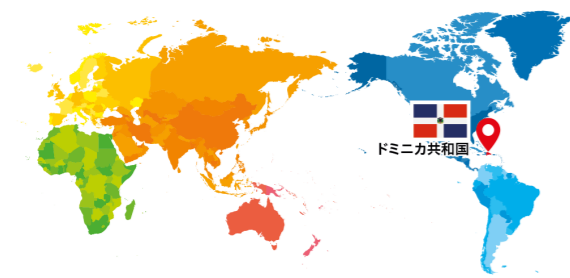
回収箱は、今では百数十箱にもものぼり、農家さんを取り巻く環境が前に進めば、良質なカカオをより効率的に生産できるようになります。

カカオを育てて、暮らしを健やかに。

そしてたくさんの人がチョコレートを食べれば、地域の美化や環境保全にも。

私たちもこのステキなサイクルの一員なんだと思うと、いつものチョコレートがもっとおいしく感じるかもしれませんね。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



ドミニカ共和国(以下「ドミニカ」)は、南北のアメリカ大陸に挟まれたカリブ海の中で、2番目に大きい島「イスパニョーラ島」の東側約3分の2を領土とする国です。面積は九州よりやや大きい約4.9万km²、人口1000万人を超える国で、主な産業は砂糖・カカオなど農産品の輸出のほか、最近では観光による収入が急増しています。またドミニカといえば、野球を連想する方もいると思いますが、まさにその通り。野球が国民的スポーツとして圧倒的な人気を誇っており、国内にプロリーグはないものの、アメリカのメジャーリーグなどに多くの選手を送り出しています。



ゴミ分別回収箱、パソコンなどを寄贈 (明治公式HPより)

そのドミニカで、主な産業のひとつである「カカオの生産」を支援するために明治では、「メイジ・カカオ・サポート」という取り組みを2006年からはじめました。これは、高品質なカカオを生産し続けられるよう、カカオ農家を支援するための取り組みで、当社スタッフが世界各国の産地まで足を運び、現地の農家のさまざまな課題に合わせた支援を行っています。ドミニカに向けては、農園の環境改善や、学校・病院などのインフラ整備を主に実施しています。具体的には、資源ごみを分別するための「回収箱」の寄贈(寄贈実績:2022年度時点で132箱。目標:2026年度までに99箱、現時点ですで達成済み)や、学校に対しパソコンなどの学用品や水洗トイレの寄贈、校舎や医療施設の補修などを行いました。このような支援を通じて、高品質カカオの効率的な生産、さらにはSDGs達成に貢献しています。

キーワード

インフラ

「インフラストラクチャー」の略で、電気・水道・道路・公共施設など、生活や産業活動の基盤となっている施設のことです。

資源ごみ

再資源化が可能なごみのこと。古紙・ビン・ペットボトル・布などがその例で、再生資源ともいいます。

回収箱

リサイクルが可能なものを回収する箱。種類ごとに分別して回収する「分別回収」の方式をとることが多いです。

対象ゴール



みなさんにできること！

ドミニカが抱えている問題に目を向け、さらに理解を深め、なにができるか考えていきましょう。

おさらい

- カカオ農家の支援には、農園の環境改善や学校・病院などのインフラ整備なども有効。
- 回収箱を寄贈することで、リサイクルに対する理解をもっと深めてもらう。
- さまざまな支援を通じて、高品質カカオの効率的な生産に貢献している。

メモ



SDGs ラジオ